

Title	研究大会ラウンドテーブル：図書館情報学の研究成果を書籍出版する
Sub Title	
Author	金沢, みどり(Kanazawa, Midori) 酒井, 由紀子(Sakai, Yukiko) 守田, 省吾() 根本, 彰(Nemoto, Akira)
Publisher	三田図書館・情報学会
Publication year	2018
Jtitle	Library and information science No.80 (2018.) ,p.55- 55
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00003152-00000080-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究大会ラウンドテーブル 図書館情報学の研究成果を書籍出版する

話題提供者：金沢みどり（東洋英和女学院大学）

酒井由紀子（東京財団政策研究所）

守田 省吾（みすず書房）

モデレータ：根本 彰（慶應義塾大学）

2017年度に引き続き、ラウンドテーブルを開催した。今年度のテーマは「図書館情報学の研究成果を書籍出版する」とした。モデレータと3人の話題提供者による論点の提示に続き、後半ではフロアを交えた自由な意見交換を行った。

モデレータから、学術書籍出版の近年の動向を背景に、図書館情報学領域における書籍出版、出版企画と経費の問題という論点を中心に、研究者と出版者のそれぞれの立場から自由な意見交換を行うことを目指すという開催の趣旨が説明された。図書館情報学領域の出版物は、司書課程向けの教科書、一般書・教養書、研究書（博士論文の出版を含む）、海外出版者から出版する書籍など多様である。こうした多様な書籍について、3名の話題提供者により、それぞれの立場からの書籍出版にかかわる経験が具体的に紹介された。

ラウンドテーブルの後半では、フロアからの質問を交えた意見交換が行われた。書籍出版に対する研究者と出版者の立場の違いや市場との関係、図書館における専門書の購入、大学における人文学の位置付けなどについての議論があった。最後に、改めて、図書館情報学の書籍の「読者」は誰なのかという質問がフロアからなされ、これに答える形で全体のまとめが行われた。図書館情報学の内部の研究者だけでなく、図書館や出版者で働く人たち、また関連領域の研究者など、広い範囲に向けた書籍出版が行われていること、書籍が読まれなくなっていくなか、読者を見つけ、いかに増やしていくかが大きな課題であるという認識が示された。